

平成 25 年度 第 1 回 田川市子ども・子育て会議

日時：平成 25 年 11 月 18 日（月）午後 6 時から

場所：田川市役所 4 階 第 2 委員会室

【 委 員 】

団体名	氏 名	備考
福岡県立大学	松浦 賢長	会長
たがわ子育て支援コミュニティ たがわんわ	濱田 美穂	
NPO法人子どもネットワーク COCO田川	市原 雅子	
田川市小学校校長会	中野 直毅	
公立幼稚園（伊田幼稚園）	加治 智子	
私立幼稚園（カトリック幼稚園）	福島 三枝	
田川地区保育協会田川支部	渡辺 法恵	副会長
〃	日野 多賀美	
保育所関係	古賀 洋介	
〃	福光 満美	
幼稚園関係（カトリック幼稚園）	古賀 知久紗	
幼稚園関係（後藤寺幼稚園）	岩丸 麗子	
田川市PTA連合会	長野 忍	欠席
公募委員	鶴我 奈巳	
公募委員	園 真紀子	

【 事務局 】

職 名	氏 名
田川市役所 市民生活部 部長	柳井 妙子
田川市役所 子育て支援課 課長	丸山 一仁
田川市役所 子育て支援課 課長補佐	吉田 俊一
田川市役所 子育て支援課 主任	喜多村 一也
田川市役所 学校教育課 課長	小林 清
田川市役所 学校教育課	辻 伸一

【 傍聴人 】 1 名

【審議内容】

5. 議題

(1) 田川市子ども・子育て会議運営及び公開に関する要綱（案）について

事務局：それでは、ここから議題に入りたいと思うので、ここからは会長の方に司会進行の方をお願いします。

松浦会長：終わりの時間は20時ということで、その時間までに終わるようにご協力をお願いします。では5. 議題の(1)～(4)とあるが、(1)について事務局をお願いします。

事務局：それでは、(1) 田川市子ども・子育て会議運営及び公開に関する要綱（案）をご覧いただきたい。この会議が1回目となるので、会議の運営及び公開についての要綱案を決めさせて頂き、了承頂いた後は運営及び公開していく。

第1条（目的）、第2条（会議の公開）、第3条（傍聴の手続き）、第4条（傍聴することができない者）、第5条（傍聴人の守るべき事項）、第6条（撮影又は録音の禁止）、第7条（係員の指示）、第8条（傍聴人の退場）、第9条（会議録等）、第10条（その他）について、ご審議をお願いします。

松浦会長：この案でよいか。この案について何か質問はないか。では、私の方から1つ質問する。第9条の会議録は、要約でいいということか。

事務局：そのとおりである。

松浦会長：皆様、いかがだろうか。何か質問がある方はいないか。

古賀委員：第3条の所定の場所とは。

事務局：会議が開催される場所はホームページにてお知らせする。

松浦会長：その他はないか。この時間から傍聴の方は入室でよいか。

(2) 子ども・子育て支援新制度の概要について

松浦会長：それでは、(2) 子ども・子育て支援制度について事務局をお願いします。

事務局：子ども・子育て支援新制度の概要についてご説明する。田川市子ども・子育て会議の第1回会議資料をご覧いただきたい。1p～の「1. 子ども・子育て会議について」、2p～の「2. 子ども・子育て支援事業計画策定の趣旨について」、5p～の「3. ニーズ調査等作業内容について」説明。概要については以上となる。

松浦会長：資料に基づいての説明だが、何か質問はないか。

日野委員：2pにある質の高い幼児期の学校教育とは、幼稚園のことか。保育所の事はふれられていない。

松浦会長：内閣府の資料なので、私どもで手を加えるわけにはいかない。幼稚園のみならず、保育所も重要であることを共有させて頂くということではいかがだろうか。

日野委員：ニーズ調査の就学前とは何歳か。

事務局：0（ゼロ）歳から6歳である。

松浦会長：幼稚園だろうが、保育所だろうがシンプルに0（ゼロ）歳から6歳で、1,500世帯となる。ほかには質問はないか。

園 委 員：ニーズ調査は、この様式なのか。

松浦会長：説明では、この様式だと思う。特に現時点では他の様式はない。

濱田委員：ランダムに郵送されるのか。在宅で保育されている方もいると思う。

松浦会長：対象の選択と配付の仕方についての質問だが、資料では抽出方法は住民基本台帳、配付の仕方は直接郵送となっている。

日野委員：郵送で決定かと思うが、調査票を記入して郵送で送る人は少なくなると思う。確実なパーセンテージを求めるならば、幼稚園や保育所を利用して声かけして回収した方がきちっとしたニーズ調査ができると思う。

松浦会長：おっしゃる通り。前は3割。高くはないと思う。全国共通して苦労されているところだと思う。保育所で声かけでの回収は偏るため、そういう懸念もあって郵送なのだと思う。

日野委員：それは分かるが、ニーズが必要な方々は、助けてと言うのが上手じゃない人だと思う。本当に必要なニーズは、アンケートではあがってこない。

松浦会長：ご意見の通りだが、この調査の結果について、回答が多いところに着目して、重点的なニーズを考えていくと、どんなことが多いのか統計的に見ると同時に、ひっかかった事や皆さんが子育ての中で得たこと等を、会議の中でどんどん出して頂けたらと考える。

岩丸委員：田川市で何世帯あって、1,500人を選ぶのか。

事 務 局：1学年400人弱で、0歳から6歳まで2,500人ほどとなっている。

松浦会長：1年に400人生まれるということだと、1人っ子だと400世帯。2,400世帯を超えない範囲だと思う。技術的な話に偏り、なかなか理念などの意見がでてこない。ニーズ調査票案にいくが、反映の方向にいきたいと思う。

岩丸委員：スケジュールについて、次の会議は2月なのか。田川市には待機児童はどれくらいいるのか、データはこちらにはもらえないのか。

事 務 局：田川市には、待機児童はいない。希望する園に入れたい人はいるが、定員に対して入れないことはない。

松浦会長：岩丸委員の意見は、まずスケジュールだが2月まで空けすぎだということだろうか。ニーズ調査を見た上で、状況からまた設けるとしよう。

(3) 田川市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（案）について

松浦会長：案の議論について、1番時間をとらないといけない。ニーズ調査票の小学生と就学前は手元にあるか。中身が2色刷りになっており、色の意味があるとの説明だが、青い所は国が調査で聞くように言っているところで変更することが難しい箇所、黒い所を中心に意見をもらえたらと思う。就学前は28p、小学生は24pであり、この質問を入れてくれという意見は厳しい為、これはいらないと削る案の方向でお願いしたい。では、調査票の1pから協議に入る。何か質問などないか。

岩丸委員：4 p 問 11-1 の「身体的負担が大きく心配」は、「小さく心配」などはないのか。

松浦会長：「大きい」が続いているが、何か意図があるのだろうか。

園 委 員：「負担が大きく、」ではないか。

市原委員：4 p 問 11 は、どれも当てはまらない。みてもらえる時もあれば、みてもらえない時もある。

松浦会長：その他をつけるか。そういう人がほとんどだと思う。2か4に○をつけて、次の質問から進んだ方がいいかもしれない。それか、2と4には「ことがある」を付け加えてもらうと良い。

では、6 p と 7 p についていかがだろうか。10 p までお願いする。12 p までいくとしよう。もちろん、前に戻って頂いてもいい。

岩丸委員：12 p 問 21 「なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生する可能性がある」と記載してあるが、今現在は発生しないと思う。

事 務 局：この部分は、国では地域の子育て拠点事業を利用しているかという問いだったのだが、田川市では支援センターしか該当しない関係で、そこを支援センターと書き直している状況なので、先ほどの利用者負担は発生しない為、削除させて頂く。

また、13 p 問 22 の注釈の6と7が逆の説明となっている為、修正させて頂く。

松浦会長：14 p ～16 p までお願いする。

日野委員：13 p 問 22 で、発達相談は何番目に該当するのか。⑤番目か。

松浦会長：具体的にお願います。

日野委員：臨床心理士のアユカワ先生がいらっしゃって、ここに発達の相談に通っている子ども達がいるが、その名称は子育て相談の窓口になるのか。

松浦会長：それは市役所がやっている事業か。

日野委員：保健センターで行っている。

松浦会長：それでは、⑤の子育て相談の窓口になる。

日野委員：そしたら、わからないと思う。

松浦会長：子育て相談の窓口とは別に、療育・発達相談をひとまとめにするか。

園 委 員：民間と行政があるが、NP 講座も付け加えて欲しい。

松浦会長：事業として認められているかどうかだが。そういう議論は、收拾がつかなくなるので。事業と書いてあるからには、公費だと思うが、いかがか。⑥、⑦、⑧は外そう。

③には「子育て支援センター」を付け加えよう。17 p ～19 p、21 p までお願いする。

22 p から全部黒色のような。検討に時間を要しているので 22 p ～23 p を目を通して欲しい。

日野委員：20 p の注釈 10 はいらない。17 p で使われているのでいらない。

松浦会長：それはなぜか。

日野委員：17 p の真ん中で同じ記載があるから。

松浦会長：入れておくべきではないか。日野先生がおっしゃるのは、問 30 にはその注釈がないのに、問 29 にはあるので、注釈の 10 は2回出てきているというご指摘。

日野委員：やっていないものでも、決まった形なので削除はできないということか。7に挙げる必要もない。

松浦会長：全国で番号で処理するので、番号が変わらない方が都合がいい。先生からのご指摘があったが、問30に注釈を入れておいた方がいい。何かその他質問ないか。
24p、25pも願います。

岩丸委員：25pの注釈17の「就学の始期に達するまでの子」の始期とは何か。わからない。

松浦会長：これは、「就学前」の方が1番分かりやすい。ここは「就学前」にしておこう。

加治委員：前に戻って申し訳ないが、12pの問25-3の質問で、これは休んで看れなかったということ。理由は何か。と聞いた方が分かりやすいのでは。

松浦会長：問25-3の「休んで看たい」を「休んで看たかった」にし、1の部分を消して、2を削除。日数だけを聞き、問25-4を休んで看ることができなかった理由についてということにすると良い。27pと28p最後までいこう。

鶴我委員：26p問35の「3つまで」というのは、少ない気がする。優先順位とっていいのか。

事務局：次世代育成支援行動計画を作る時に同じ質問を出して、その時は3つ答えさせていて、その時と今回を比較したいということで問35と問42は「3つ」にしている。問35だけが比較の設問になっている。

松浦会長：それは、次世代育成支援行動計画と比較するということか。

事務局：その通り。どのような変化が見られるかということである。

松浦会長：別にいくつ〇をつけてもらっても構わない。上から3つを比較すればいいので。一言一句次世代と同じということか。違ふとすれば、5つでいこう。

濱田委員：問35を3つにするなら、問42も同じにしないと間違えやすいと思う。

松浦会長：素晴らしい意見である。では、3つにしよう。

中野委員：問38と問39は、メディアにどれだけ時間をとられているかということだと思う。それだったら、わざわざ2つ入れずに密着した保育が家庭で出来ているかという設問にしたらどうか。

松浦会長：テレビを見ている人が多かったら、広報に出せるということでは。分けている理由は、問38はネグレクト、問39では依存につながる。

加治委員：問39の設問に、スマートフォンも入れた方がいい。

松浦会長：「電子ゲーム機やスマートフォン等」にしておこう。残り10分。基本同じ所は、同じく修正をしていくということになる。見て頂いて、就学前版にないものをコメントして頂く。

岩丸委員：問35と問36の設問に、スマートフォンも入れた方がいいと思う。問33だが、今は戸外で電子ゲームしている人多い。

松浦会長：戸外と室内と、何しているのかが混在していて答えづらい。問33は、外遊びと室内を消して、内容にしよう。

濱田委員：問31で「身体を使って」とあるので、いらぬのでは。

松浦会長：問 31 で聞いているので、「何人くらいと遊んでいるか」にするか。異学年や同級生と遊んでいるかということにして、再校正するというので、それは私の方に一任頂きたい。

松浦会長：時間になった。その他いかがか。

岩丸委員：21 p の問 28 は、保護者自身が P T A 活動などに関わっているかというような設問は必要ないだろうか。

松浦会長：問 28 と問 29 を入れ替えることがよいかも。子どもの活動より、保護者の活動の方が重要だというメッセージがあるようだが、いかがだろうか。保護者の地域活動ということにし、私に一任頂きたい。

(4) その他

松浦会長：では、議題（4）で、次回の会議の開催時期の検討となる。

岩丸委員：次世代の資料などは、もらえないのか。

事務局：毎年度、評価をしており、ホームページ上に載せている。

日野委員：第 1 回会議資料 7 p の（3）の現況、意向調査とは何か。

事務局：新制度に対する認定こども園の意向などをアンケートで調査する。

日野委員：この会議の中で、見ることはできるのか。

事務局：ニーズ調査と同時期の調査となる。

日野委員：田川市に、まだ実現出来ていないものはたくさんある。発達障害の子が増えてきているが、それに対しての事業が進んでいない。

松浦会長：様々な課題については、今後検討が必要となる。それでは、議論はここまでとし、事務局に返す。

6. 閉会

事務局：第 1 回目の会議お疲れ様でした。これをもって、第 1 回田川市子ども・子育て会議を終わらせていただく。ありがとうございました。

○次回第 2 回会議予定：平成 26 年 2 月

・ニーズ調査結果。具体的な日程は未定。

以上